



# 伊藤ひろし県議会報告

発行 / 伊藤ひろし千葉県議会議員事務所

〒275-0026 習志野市谷津2-1-15 電話047(779)3385

## 習志野市域 東側「5万3,300人」の生活排水

(東習志野・実籾・実籾本郷・泉町・新栄・大久保・本大久保・屋敷・花咲地域)

### 県営下水道—汚水処理施設と処理水放流管

花見川第二  
終末処理場

# 老朽化、確実な耐震化を

## 耐震診断・躯体補強工事の予算を要望



令和3年6月定例県議会(予算委員会)で登壇

### 大規模地震に 対する耐震性能を質す

市民が「習志野市にずっと住みたいまち」と、コロナ禍にてマスクで全力投球している私、伊藤ひろし(習志野市選出・1期)は、6月県議会(予算委員会)で登壇しました。今年、東日本大震災から10年。

当時、下水道被害による不慣れた生活体験をした代表者として習志野市民の生活排水(汚水)を処理する県営下水道施設は稼働約30年が経ち、老朽化が心配されます。災害に強い公共インフラ施設に向けて耐震診断や設計、工事の予算確保を要望しました。

その他、「教育立県ちば」に向けて、地方創生の観点から、新学習指導要領に基づく「キャリア教育」の推進、質の高い「教員養成の環境づくり」を具体的に提案しました。

### 「花見川第二終末処理場の耐震化」の質問と要望

伊藤ひろし 私に住む習志野市域の東に位置する地域住民「約5万3千3百人」の台所やお風呂、トイレから流される生活排水や工場素材加工する過程で使用した工場排水などは、千葉県が敷設した下水道の管渠を利用し、自然流下しながら東京湾沿いに隣接する千葉市と習志野市の境界を跨いで建設された敷地面積約24ヘクタールの「花見川第二終末処理場」で浄化処理され、東京湾の水質保全に対応している。

現在、花見川第二終末処理場内には、各種10以上を越える汚水処理機能施設が配置され、稼働約30年が経つインフラ施設であり、機械施設などの老朽化が心配されます。また、施設敷地は、液状化しやすい埋め立て地域でもあることから、危機管理の取組こそ喫緊に強化すべき課題と考え

ます。処理場施設の耐震化の取組状況はどうか。

(要望1) 今年度も含め、塩素混和池棟など、耐震性能が未確認の施設が3施設ある状態です。計画目途令和5年度に向けて処理場施設の確実な、耐震診断・設計・工事の予算確保を要望する。

伊藤ひろし 処理水放流における危機管理の取組について、1日最大28万3千6百立方メートルの汚水処理能力を持つ花見川第二終末処理場において、浄化した処理水を浜田川に放流する延長1372メートルの「管理放流管」は、下水道のしくみや働きを勘案すると重要な役割を担っていると考えます。管理放流管の耐震化の取組状況はどうか。

(要望2) 下水道事業の危機管理として、管理放流管の耐震性能を確実に有するよう今年度の耐震診断結果後の確実な予算措置を要望する。



千葉市と習志野市を跨ぐ汚水処理施設(東京湾沿い)



未耐震診断の沈殿池(汚泥)

### 伊藤ひろしプロフィール

#### ● 略歴

- 1975年 10月生まれ(45歳)
- 1994年 東海大学付属望洋高校卒
- 1998年 東海大学政治経済学部卒
- 2007年 習志野市議会議員当選(3期)
- 2019年 千葉県議会議員当選

#### ● 現職

- 県議会 健康福祉常任委員会委員
- 千葉県環境審議会委員
- 習志野健康福祉センター運営協議会委員

#### ● 資格

- 中学・高校教員免許、防災士

● 登壇(令和3年7月6日)の録画中継(全30分)をインターネットからご覧いただけます ●

伊藤ひろし 110 164

検索

画面左の

録画中継

をクリック

# 市政と県政の架け橋 習志野市へのまちづくり貢献

## 県管理の道路・歩道「交通安全」



改修後



改修後

河川脇歩道の路面改修(菊田川)



塗装後



改修後 ※市長へ要望

歩道の路面改修(袖ヶ浦)



要望中



改修前

歩道の拡幅・段差解消(藤崎)



塗装前



改修前

## 県立学校のバリアフリー整備「市内指定避難所」

〈身体障がい生徒さんに優しい学校生活・市内実剣高校〉



今年度、エレベーター設置予定



バリアフリー対応トイレ整備



車椅子用スロープ設置



階段昇降機の配置

## 現地調査 下水処理場の電気動力機械と放流水



習志野市民の生活排水を浄化する「花見川第二終末処理場」の停電対策を調査しました。現況の非常用自家発電の燃料タンク容量は14時間分であります。千葉県内では、令和元年の台風15号に伴う大規模停電により、11処理場、44ポンプ場等で停電が発生し、一部の施設では、長時間の運転による自家発電設備の故障や資器材の手配の遅れが生じたことにより、県民に下水道の使用自粛を要請する地域が発生しました。汚水処理機能の継続確保に向けて、燃料投入の対応強化と関係市町との連携訓練の実施を要望しました。

引き続き、「習志野 ずっと住みたい まち計画」をスローガンに、  
世界一の都市創造に向けた一環  
「市民の命を守るまちづくり」に向けて活動していく所存です。  
皆様のご指導を宜しくお願い致します。

伊藤 寛

